



自然学校講座（指導者入門）〔後期〕を開催

前号の指導課だよりでもお知らせしておりました、自然学校講座（指導者入門）〔後期〕を平成28年2月27日（土）～28日（日）の2日間で開催しました。この2日間のねらいは、プログラムデザインの習得というプログラムを組み立てる学校の先生をメインの対象にしました。その結果、指導補助員や大学生だけでなく、3校4名の先生方から申込があり、その中には、次年度本校を利用する小学校の先生も含まれていました。開催日が休日ということもあり、勤務として参加しづらい状況であったと思われませんが、自己研鑽のために参加した先生方の姿を見ますと、自然学校に対する高い意欲を感じることができました。



簡単に講座内容を紹介します。全体を通しては、2日目のプログラムデザインの演習を見据えて、活動前に「それぞれの活動にどのような目的があるのか」という活動のねらいについて各自が考える時間を設けました。受講者によって自然体験活動の経験が異なるため、短い時間ではありますが、交流する時間も設け、互いの考えに触れることで、ねらいを考えることが難しい受講者もねらいに気付くことができました。「キャン

ドルづくり」「バウムクーヘンづくり」は、班毎に活動しました。初対面の受講者が大半でしたが、活動を班で進めていく中で、会話も弾み、打ち解けていく様子が見て取れました。「キャンドルづくり」は、自分たちでつくったキャンドルを利用してカウシルファイヤーに繋げていくことができます。「棒焼きパンづくり」は個人の活動ですが、「バウムクーヘンづくり」は、仲間づくりの視点で活動することもできます。



「朝来山登山と登山の楽しみ方」は、セルフガイドシートの作成を手段として、自然を見つめることをねらいとしました。セルフガイドシートづくりは、①『配付された地図をもとに南但馬自然学校内の散策を行い、おすすめのスポット（自分が一番素敵だと思う場所、他人にぜひ紹介したい場所等）を探す』②『散策する中で各自が見つけたおすすめのスポットについて、絵（ラフスケッチ）と解説等を加え、ワークシートに記入する』というものです。受講者それぞれの視点で、自然を意識して観察したり体感したりすることができました。また、セルフガイドシート作成後の振り返りでは、班内で褒め合ったり、認めあったりする場面が見られ、また、登山で発見したことだけ



ではなく、それぞれの経験なども交えた意見発表もあり、受講者も活動後の振り返りの大切さもあわせて実感することができたように思います。「天体望遠鏡の使い方と星空観察」は、曇り空のため、星空を観察することができませんでしたが、講師の方々が様々な望遠鏡や器具を提示するなど、準備をさせていただいたお陰で、受講者は、天体望遠鏡を実際に触り、ファイ

ンダーで見た星を探す操作の仕方等を講師から直接教えてもらうことができました。「木伐採とクラフト」は、ヒノキを伐採し、伐採した木を使ってクラフトを行いました。木伐採では、基本技術だけでなく、危険度が高いため、安全に実施できるように事前指導すべきことの確認をしました。木伐採の際に「ヒノキのいいにおい」「大きいな」という受講者の声があり、日常では体験できない機会となったようです。



その後のクラフトは、伐採した木がなくなるほど熱心に作業する受講者が多く、時間を忘れて



ものづくりに没頭する姿が印象的でした。「関連するプログラムづくりのために」では、今回体験した活動についてイメージする事柄を出し合い、整理することで、その活動と関連する活動を考えてもらいました。受講者は、イメージする事柄を次々と出し合い、そのイメージを手がかりに、事前や事後に結び付けられそうな活動を考えました。今回は「クラフト」と「登山」をそれぞれの班が選択し演習しましたが、振り

返りの中で、それぞれの活動が関連し、結びつくことを確認することができました。「プログラムデザイン」は、最初にプログラムデザインの説明をし、受講者の勤務校のプログラムをもとに演習しました。実施された学校以外の受講者にとっては、子どもの実態が分からないという点はありませんでしたが、実施校のねらいや本校で実施可能な活動の種類などをもとに、プログラムデザインを行いました。実施されたプログラムであったために、自由な発想の妨げとなり難しく感じた受講者もいましたが、「自校の自然学校をデザインする上で、とても参考になりました。来年度どういう形で自然学校に関わることになるか分かりませんが、今回グループの皆さんと考えたことを生かしたいと思います」という感想もいただきました。

次年度は、新たに「自然学校指導者スキルアップ研修」と講座名を変えて、小学校の先生方を対象として同時期の平日に開催します。より多くの先生方の参加に期待します。

《受講者の感想から》

- ・子どもたちメインでやっていた活動を、大人だけで、自分たち主体でできたのが新鮮で、子どもたちの気持ちを体験できた気がします。考えながら楽しく、自由に活動できておもしろいなど改めて思いました。
- ・子どもたちの気持ちや学び、充実させるためにプログラムデザインの組み立ては大切だと思った。教員が自ら体験し、経験を積んでいくことで子どもたちによりよいプログラムが組めると感じた。
- ・保育内容で習った生きる力の中身が同じであり、ねらいやテーマを決めるあたりが指導案を書く時と似ていて、勉強していることが役に立つなど実感しました。子どもたちのどの時期にどのようなことをすればどうなるのかなどを考えていくことがとても難しいので、今回は色々な意見を聞いて1つのものを作りあげていくことができてよかったです。

編集後記

今年度、最後の指導課だよりの発行となりました。これまで、自然学校を実施する上で、参考となるような情報を提供する目的で発行してきましたが、少しでも参考にしていただけたことがあったならば幸いです。
(文責 主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣)